



感じて動く ~ Feel & Move ~

目指す児童像：かしこさいっぱい やさしいいっぱい たくまさいっぱい

三城小学校 学校だより
R6.3.18 第20号
校長 田中康隆

ご卒業、おめでとうございます！

3月18日(月)、春の暖かな日差しの中、本校卒業式を執り行いました。私からは、以下の話をしました。

式 辞

校庭の桜のつぼみが膨らみ、今まさに咲こうとしている今日のよき日に、大村市立三城小学校を巣立ちいく百十五名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日は、皆さんの門出をお祝いするために大村市長様、中野PTA会長様、大村中学校の副校長先生はじめ地域のご来賓の皆様がこの席に着いていただいています。日頃の学校へのご理解、ご支援に、高い所からではありますが、心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございます。

卒業生の皆さん、今、皆さん一人一人に卒業証書を手渡しました。その卒業証書は、皆さんがこの六年間、立派に学校生活を果たし終えたという証です。一枚の紙ではありますが、その中には皆さんの六年間すべてが込められています。ぜひ、大切に保管してください。

皆さんとは、たった一年一緒に過ごしただけの私ですが、運動会で下級生を引っ張っていく姿、学校の三つの自慢「あいさつ・へんじ・はきものそろえ」をさらに高めていこうとする姿、ケガをした下級生を保健室へ連れてきてくれたりして優しく世話をする姿等、挙げれば数えきれないほどの「感じて動く」よさを見てきました。また、反省から何とか立ち直ろうと学級でもがく姿、友人関係で悩み苦しむ姿もありましたが、そのすべてが決して無駄ではなく、今後の皆さんの成長に生かされていくことを強く信じています。

そういう皆さんを本日送り出すにあたって、心にとどめておいて欲しい「三方よし」という話をしたいと思います。江戸時代の有名な大阪商人が孫に残したとされる著書の中に、自分のことよりもお客様のことを考え、みんなのことを大切にして商売をするべきだと、「自分よし、相手よし、世間よし」ということが書かれていたそうです。「自分だけがいい思いをするのではなく、相手も満足して喜び、最終的には自分の仕事を通して社会の役に立つ仕事をしなさい」と言うのです。これを皆さんの生活に当てはめてみると、自分の幸せだけにとらわれず、相手のため、みんなのためを思って行動することで、必ず世の中は明るく幸せなものになっていくということになります。もちろん、「世の中」には自分が含まれているはずで、多くの人の笑顔に囲まれた中に、自分の笑顔もあることの方が、より幸せだと思うのです。皆さんは、これからの未来を背負って立つ人材です。外国の人をはじめいろいろな人と交わり、力を合わせて社会を創る未来を創る一員となります。これを難しい言葉で「共生」と言います。「共に生きる」と書きます。そして、人との共生だけではなく、自然との共生も考えて行かなければなりません。人間は自然に生かされています。いかに科学が発達しようとも、空気と水と食料がなくては生きていけません。今年正月の出来事のような災害を考えた時に、自然の怖さを知り、自然を敬い大切にす、謙虚で感謝の心を忘れない生き方をして欲しいと思います。多くの人、もの、ことを大切に、共生しながら、大村の、日本の未来を切り拓いてください。

今日、皆さんの卒業にあたり、私が皆さんに期待したいことは、自分の将来に大きな夢や希望を抱き、その夢や希望の実現に向けて、困難にくじけず、たゆまず歩み続けて欲しいということです。そして、皆さんが今心に描く将来の夢や希望が実現することを心から願っています。

終わりにになりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。お子様を慈しみ、大きな愛情をもって支え育ててこられたことに対し深く敬意を表します。また、本校の教育活動に対し、常に温かく見守り、支えていただき本当にありがとうございました。卒業生の皆さんがこの三城小学校を卒業したことを誇りに思い、今後もそれぞれの場所で輝き活躍してくれることを祈念いたしまして、校長式辞といたします。

令和6年3月18日
大村市立三城小学校校長 田中 康隆

115名の卒業生の未来が幸多からんことを、心からお祈り申し上げます。